
COVID-19 の 5 類感染症移行後の看護師ストレス実態調査

医療法人衆和会 長崎腎病院

○岩永飛鳥 下田美智子 宮崎千秋 平山恭子 金子 恵 本田 綾 中村麻美 白井美千代 船越 哲

【はじめに】

当院では毎年 9 月に全職員の職業性ストレス調査を行っている。当院の先行研究では COVID-19 流行期の 2020 年の調査で高ストレス者が増加しており、その原因として不安、業務量、身体愁訴が示唆され、他の先行研究でも同様の結果であった。2023 年 5 月より COVID-19 が 5 類感染症へ移行され、看護師の高ストレス者が減少することが期待される。

【目的・方法】

看護師のストレス度がピークであった 2020 年と、5 類感染症移行後 2023 年 9 月のストレス度の変化を調査し、看護師のストレス度が緩和されたかを明らかにする。当院看護師を対象とした職業性ストレス調査票を集計、2020 年と 2023 年のストレス状況のデータを比較し、COVID-19 の影響を分析する。

【結果・考察】

2020 年と 2023 年のストレス度を比較したところ、予測に反して有意差は認められず、ストレス度は緩和されていなかった。この要因として、今回の検討が 5 類感移行後半年と早期であったことが考えられる。今後、職業性ストレス調査では明らかにならない要因についても調査したい。